

ミョウガ*1 (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	茎葉	花穂	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	いもち病	根茎腐敗病	紋枯病	葉枯病	白絹病
アミスター20FL		☆	QoI	11		3	2			◎		
	☆					*b			◎			
モンカットFL40		☆	アミド	7		3	2			◎		
	☆					*b			◎			
ベンレート水		☆	ベンゾイミダゾール	1		3	3	◎				
	☆					*b		◎				
リゾレックス水		☆	有機リン	14		14	2					◎
	☆					*c					◎	
オラクル顆水		☆	他	21		*d	3		◎			
	☆					*b			◎			
ダコニール1000FL		☆	他	M5		14	4			◎	◎	
	☆					*c			◎	◎		
ランマンFL		☆	他	21		*e	1		◎			
						*d	3		◎			
		☆					*e	1		◎		
							*b	3		◎		
ユニフォーム粒		☆	QoI・アミド	11・4		30	2		◎			
	☆					*a			◎			

*1:収穫利用する箇所が「茎葉」のもの、「花穂」のものなどで登録が異なる。☆で区別した。

*a:花穂の収穫30日前まで(但し花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで)

*b:花穂の収穫3日前まで(但し花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで)

*c:花穂の収穫14日前まで(但し花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで)

*d:生育期(但し収穫3日前まで)

*e:植付前

ミョウガ*¹ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	茎	花	系統区分	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	ア	ア	カ	ハ	ハ	ネ
	葉	穂						ザ	ブ	イ	ス	コ	ブ
								ミ	ラ	ガ	モ	ダ	セン
								ウ	ム	ラム	ン	ニ	チュ
								マ	シ	シ	ヨ	ウ	ウ
								類	類	類	類	類	類
スピノエース顆水* ²	☆	☆	スピノシン	5		1	2	◎					
	☆					*b		◎					
コロマイト乳* ²	☆	☆	マクロライド*	6		1	2					◎	
	☆					*b						◎	
アタプロン乳* ²	☆	☆	I G R	15		1	2				◎		
	☆					*b					◎		
カスケード乳* ²	☆	☆	I G R	15		1	3				◎	◎	
	☆					*b					◎	◎	
ガードホープ液	☆	☆	殺線虫	1B	劇	*a	1						浸
ネマトリンエース粒	☆	☆	殺線虫	1B		*a	1						◎
サンマイトFL* ²	☆	☆	殺ダニ	21A	劇	1	2					◎	
	☆					*b						◎	
ダニトロンFL* ²	☆	☆	殺ダニ	21A		1	1					◎	
	☆					*b						◎	
マイトコーネFL* ²	☆	☆	殺ダニ	20D		1	1					◎	
	☆					*b						◎	
フェニックス顆水	☆	☆	ジアット*	28		1	3				◎		
	☆					*b					◎		
アクタラ顆溶* ²	☆	☆	ネオコチノイト*	4A		1	3			コ			
	☆					*b				コ			
アドマイヤー顆水* ²	☆	☆	ネオコチノイト*	4A	劇	1	2			◎			
	☆					*b				◎			
ダントツ溶* ²	☆	☆	ネオコチノイト*	4A		1	3			ナ			
	☆					*b				ナ			
アグロスリン水* ²	☆	☆	ヒレスロイト*	3A	劇	1	5	◎	◎		◎		
	☆					*b		◎	◎		◎		
アフーム乳* ²	☆	☆	マクロライド*	6		1	2					◎	
	☆					*b						◎	
コテツFL* ²	☆	☆	他	13	劇	1	2					◎	
	☆					*b						◎	
モレスタン水* ²	☆	☆	他	UN		1	3					◎	
	☆					*b						◎	

*1:収穫利用する箇所が「茎葉」のものと「花穂」のものとして登録が異なる。☆で区別した。

*2:花穂の散布にあたっては、花穂の発生時にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用すること。

*a:定植前 *b:花穂の収穫前日まで(但し花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで)

コ:コナカイガラムシ類 ナ:ナスコナカイガラムシ
浸:30分間種根茎浸漬

ミョウガ*1 (野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
葉枯病	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 ダコニール1000(FL) <u>#1</u> 1000倍	
根茎腐敗病	植付前	1. 排水を良好にする。 2. 健全根茎を植付ける。	本病はピシウム菌による。
	生育期	・発生を見たら次のいずれかの薬剤を処理する。 オラクル顆粒水和剤 <u>#1</u> 2000倍 3ℓ/m ² ランマンフロアブル <u>#1</u> 500倍 3ℓ/m ² ユニフォーム粒剤 <u>#1</u> 18kg/10a	
アザミウマ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン水和剤 <u>#1</u> 、 <u>#2</u> 1000倍 スピノエース顆粒水和剤 <u>#1</u> 、 <u>#2</u> 5000倍	
カイガラムシ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 アドマイヤー顆粒水和剤 <u>#1</u> 、 <u>#2</u> 10000倍	
ハスモンヨトウ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタブロン乳剤 <u>#1</u> 、 <u>#2</u> 2000倍 カスケード乳剤 <u>#1</u> 、 <u>#2</u> 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 <u>#1</u> 2000倍	
ハダニ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 <u>#1</u> 、 <u>#2</u> 2000倍 コロマイト乳剤 <u>#1</u> 、 <u>#2</u> 1000倍 モレスタン水和剤 <u>#1</u> 、 <u>#2</u> 3000倍	
ネコブセンチュウ	定植前	1. 床土は土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤を全面土壌混和する。 ネマトリンエース粒剤 20kg/10 a	

*1: ミョウガは、収穫・利用する部位により薬剤の登録内容が異なる場合がある。

#1: 「花穂」と「茎葉」で使用時期が異なるので使用の際には注意すること。

#2: 「花穂」の散布にあたっては、花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する。